

NPO 法人やまぼうし自然学校

ニューズレター 2009年

夏号



笑い声がエンジン！森の宇宙船（サマーキャンプ in 信州でのヒトコマ）

代表理事よりご挨拶



加々美貴代（がみちゃん）

小学校長期自然体験活動支援プロジェクト・・・??? 準備開始！！
2011年からスタートする小学校の新しい教育課程では、小学5年生で自然体験活動を中心とする1週間程度の長期集団宿泊活動が取り入れられます。それに向けてやまぼうし自然学校では指導者の養成と地域や行政と連携を図り、受け入れ態勢を整えて子どもたちへの楽しい体験活動の提供と、地域の活性に役立てたいと考え準備を進めています。

発行：特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校
住所：〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1223-5751
TEL：0268-74-2735 FAX：0268-74-2795
Email：info@yamaboushi.org URL：http://yamaboushi.org

スタッフよりひとこと



瑞慶寛明子（すけちゃん）

はじめて受け入れたインターンシップ生。子どもの森で。この指止まれ！と走る若武者いれば、そっーと見守る影武者もいた。短いひと夏の仲間が、“伝書バト”となり空高く飛んでいった。やまぼうしに足跡を残してくれたことに感謝！はて、戻ってくるのかな。



佐藤明希（あっきい）

「ここ（森）でなら、なんでもできる気がする」。この夏のつばやきの中で、1番うれしかった一言。ちいさな手で枝を握りしめ、小さな足で大地を踏みしめ、日ごとに逞しくなる怪物たち。一緒に今年の夏を過ごしてくれてありがとう。



武重芽里（めりちゃん）

初めての超繁忙期が過ぎ去り、先輩スタッフ・インプリの皆様と自分の実力差を一層実感した私。いつもより、更に更に小さくなっています。スタッフを悩ませ続けた長雨と残暑、短い秋空に負けない子ども達が、元気印の師匠です！



西澤純子（じゅんじゅん）

あんなにたくさん子どもたちに出会った夏は、今年が初めて。向日葵のようなキラキラ笑顔に癒されて、森の中で素敵な時間を過ごすことが出来ました。秋から冬にかけて、今度はどんな体験ができるのか今からとっても楽しみです。



保母裕美（ほぼちゃん）

運動会シーズンまっただ中！普段は挨拶も小さな声の近所の子が真剣な眼差しで駆けこする姿は、子どものまっすぐな心の表れのように輝いていました。そんな頑張りや声援を送る大人達にとっても子ども以上に楽しい時間です。久しぶりにドキドキしてしまいました！



石川順子（じゅんちゃん）

CONE トレーナー研修に参加した。都内某所に3日間缶詰。受講者7名に対して、CONE 理事の講師7名、事務局員3名という豪華版！何よりも収穫だったのは、情報交換&ネットワーク構築。今後の活動に活かしたい。



仲川好乃（よっちゃん）

小学校の体験学習、サマーキャンプイン信州、原人キャンプに参加したフォレストキッズの子どもたちが、菅平での様子を、目を輝かせながら話をしてくれました。良い経験と思い出いっぱい夏の休みになったようです。



長谷川功（はせじい）

助成金のピザ窯製作もようやく一基完成。試し焼きもあまあの出来！！来年の体験学習の新メニューへの提案・実施に期待しております。外作業の多様性にてんてこ舞い。せめて「絶対無私」で業務がスムーズに進むよう頑張りたい。

ぴよぴよ対談 ～新人2人のないしょ話～

4月からやまぼうし自然学校スタッフになっためりちゃん（以下 め）と、7月からのじゅんじゅん（以下 じゅ）が、森の片隅でなにやら「やまぼうし」を語っていますよ・・・

め：ねえねえじゅんじゅん、やまぼうしスタッフになって、思わず「なんだこりゃ!？」ってびっくりしたことってなあに？

じゅ：自分が思っていたより、すごくたくさん子どもたちが菅平に来ていることかな～。

め：私は、一見しただけでは用途不明な、ナゾな道具が棚いっぱいにあることに驚いたよ。

じゅ：そうそう、「必要は発明の母!」っていうけれど、やまぼうしでは常識になっちゃった、ヘンテコアイテムって結構あるんじゃないかな～。

め：なんといっても、タヌ吉（事務所のお客コーナーに鎮座する、やせたタヌキの剥製）！菅平カントリーフェスティバルでは、子どもに大人気だったよ。

じゅ：私は、迷わずハンドラだなあ。今回のクイズコーナーでは正体が明らかになってるけど。

め：道具に負けず劣らず、スタッフの正体に驚いたこといっぱいあったね。

じゅ：長谷川さんが、現役ラガーマンだったことにはびっくりしちゃったね。

め：私では一個運ぶのが限界だったブロックを、スタッフが、みんなひょいひょい2個運んでいたのも仰天だったよ。

じゅ：そうだね～。見習いたいなと思うインブリさんやスタッフのすごいところはいっぱいありすぎるな・・・。

め：いざという時、突発的なことでも機転を利かせて対応しているところとか、本当にすごいよね。

じゅ：一瞬で、子どもの心をぎゅっと掴んじゃうところもね。



め：そんな大人と、キラキラの子どもたちに囲まれた夏、一番印象に残っている言葉ってある？

じゅ：サマーキャンプで「3泊4日じゃ足りない! 1週間ずっとここにいたい!」って言うてくれたのが、うれしかったなあ。

め：「この五右衛門風呂ってサイコーだね!」って言っていたのも、かわいかった～。

じゅ：まだスタッフじゃなくて、6月の遊び隊キャンプでアシスタントとして出会った子どもに、「やっぱり、やまぼうしに入ったんだね」と言われたのも、感動したよ。

め：本当に、濃い日々を過ごしたもんね。キャンプが終わった後で行った泊まりがけの研修で、じゅんじゅんが寝言で「見えるところにいて!」って2回も叫んだ時は、まだキャンプしてる! って、みんな大笑いだったね。

じゅ：きゃ～、お恥ずかしい。

め：あらま、秋の菅平高原の森は、そろそろ日が暮れて涼しいというより、寒くなってきたよ。

じゅ：じゃ、最後にマニア向けの菅平の楽しみ方や素敵なものをこっそり教えて。

め：私は、自然体験の森にこの夏お目見えしたトイレのトーテムポール看板がかわいすぎてお気に入りだよ。

じゅ：私のおすすめは、ダボスの丘のてっぺんから、目が回るまでゴロゴロ転がって、ダッシュで駆け上がる競争! 楽しくってやめられないよ。

め：知れば知るほど楽しい、菅平の森とやまぼうし自然学校・・・恐るべしだね。

じゅ：ね。すごいとこに足を踏み入れちゃったのかも知れないね。

め & じゅ：わっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっは。

イベントレポート 東京支部

【高尾自然観察会 09.07.11】

7月11日恒例の高尾山自然観察会を19名の参加を得て行う。JR高尾駅より出発、日影沢でバスを降りるとキャラメルのような甘い香り。誘われるように進むとそこはカツラの人工林。すくくと伸びた樹形もさることながら、フィトンチッドを浴びて清々しい心地に。

軽い体操(会田さん担当)の後、丹野班と浜畑班に分かれて観察開始。「生活に役立つもの」として染料のアカネや和紙の原料のヒメコウソウなどを観察しながら林道を行く。ハエトリ紙の原料であるハエドクソウには驚きの声が上がった。「ハエトリ紙」は死語だと思っていたが、丹野家ではまだ日用品であるとか。そういえばやまぼうしのオフィスにもしっかりと。可憐な花からは想像もつかない代物である。



文・浜畑祐子



林道から一丁平に登り展望を楽しんだ後昼食タイムに。東京スタッフ、石川さんから冷えたパイナップルなどの果実が振舞われた。美味なり!!

午後は東海道自然遊歩道を森林浴。下って国道に出たところで解散の予定であったが、大半の参加者が相模湖を経て相模湖駅まで歩く。途中、満開のヤマユリに遭遇!

今回は前半が観察会、後半が森林浴を兼ねたハイキングと、コースのバランスもよく参加者の評判もよかったように思う。ミシュランに載って以来混雑を極める高尾山だが、ルートを変えるとこのように静かで瑞々しいコースもあるということは分かっていたただけようだ。次回は海の真鶴観察会、お楽しみに!!



イベントレポート 長野校

【財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団自然体験支援事業
「トムソーヤスクール企画コンテスト」採択事業：大明神沢 水源の森探検 09.07.11】

地元子どもたちに、森と自分たちの生活のつながりを感じてほしくて、こんな素敵な森のある地元を誇りに思っていてほしくて、地元上田っ子を募り、「大明神沢・水源の森探検」を実施しました。

「蛇口をひねれば、いつでも出てくる水。その水はどこからくるか知ってるかい？」そんな問いかけで始まった、今回の探検。沢までの道のりでも巨大ミズや謎の穴、動物の糞からよきによき生えているキノコなどなど。みんなの「おもしろいもの発見アンテナ」がいっぱいに伸び、世紀の大発見が続出！

沢の水の冷たさに悲鳴と奇声を上げながら、上流を目指します。行く手をはばむ大きな岩や、横たわる倒木、流れの速い小滝もなんのその。小さい子には手を貸したり、荷物を先に岩の上へ上げたりと知恵を使いながら、ずんずん。



ちょっと冷えた体にうれしいお昼は、ラーメンパーティー。自分と一緒に沢を登りきった具が乗ったオリジナルラーメンの味は、格別でした。

沢で見つけた宝物は、実体顕微鏡で観察。昆虫の顔をじっくり観察したり、石の表面の美しさに見とれたり。「また違う季節にも遊びに来てみよう！」と盛りあがったところで、今回の探検は終了しました。事務所に帰ったら、なんだかいつもより、水がおいしく感じた一日でした。



文・佐藤明希

森でモリモリ遊び隊

9月5～6日 秋の遊び隊キャンプ

夏休み明け、ちょっと遅くなって集まってくれた遊び隊。どんどんテントを立てて「沢いこー！」。きれいな石を見つけたり、深いところに飛び込んだり、石を積み上げて滝の上へよじ登ったり。力強い上級生と、それに憧れて頑張る下級生。なんだか微笑ましいバランス。ドラム缶風呂、ひたすらノコギリとナイフで竹細工、野菜の収穫も、と盛りだくさんな2日間。最後は、仲間の誕生日をみんなでお祝いしました。



遊ぶ、遊ぶ、笑う、笑う



暑かったから、水風呂も登場！

立派なトウモロコシを収穫



フォレストキッズ

6月20日 小手指農場にて、5月に行った森林整備で徐伐した木を使い、素敵な遊具を作っていました。

7月18日 八国山にて早朝の森ウォッチング。セミの羽化の観察に子どもたちは釘付けでした。



自分たちでつくった遊具。遊び方も考えました。最後まで残るのは・・・

キノコのホダ木の重さにびっくり。ちょっとハードな作業でしたネ。



頭を抱えて見つめているのは、セミの羽化！

体験学習レポート

東京の中学 1 年生 45 名が、森づくり体験と、自分たちで間伐した材を使った小枝パン・ウディクラフトを楽しんだ。森の恵みから、自分たちで作り出す、おいしいものと素敵なお土産。日常生活でも森をいつも感じてほしい。(09.06.04)



自分で考え、工夫する楽しさ。仲間と協力した達成感。自然の形を生かしてつくるおもしろさ。人間がかなわない、自然美。森の香り、手触り・・・五感をフルに使っての体験が、きっとこれからの学校生活も楽しくしてくれることを願っています。



日本100名山、四阿山のすそ野をゆったり歩くネイチャートレイル。木々の緑の勢いが増す、初夏の森に「うわぁ!」「へえ!」「わお!」「見て見て～」と、元気な声が響く。小学生から大人まで、森はみんなを受け入れてくれる。(09.07.02 73名の学生と教職員)



首にかけたビンゴカードや、インプリからのヒントが必要なのは、たいていトレイルコースの最初の方だけ。後は、どんどん自分たちで大発見をすることができるようになってきます。最後には「本日のスペシャル」を何にしようか迷ってしまうほど。どの季節でも、何度歩いて、新しい発見がいっぱいの楽しいトレイルコースです。

信濃毎日新聞に、掲載されました

代表理事加々美が寄せた原稿が、信濃毎日新聞に掲載されました(2009.9.10)。今後も3～4ヶ月おきに、掲載される予定です。

ハギやワレモコウの花が咲き、菅平高原はすっかり秋らしくなった。忙しかった夏休みをここで振り返りたい。

毎年7月、菅平高原にはたくさん子どもたちが目を輝かせながらやって来る。森の中で、ターザンロープで遊んだり、沢を探検したり、自分で沸かした五右衛門風呂に入ったりするキャンプのためだ。やまぼうし自然学校は地元旅館組合や宿泊施設と準備会議を重ね、子どもたちを迎えている。事前の書類のチェックや資料の送付、宿泊先の手配等、万全の準備が必要だ。

一方、参加者も何かと準備に追われているようだ。やまぼうし自然学校への問い合わせの電話も鳴りやまない。その内容は、下着の枚数や種類、リュックの大きさ、スポンはどんな物が良いかといった、持ち物に関する事が一番多い。そこに保護者の心配がうかがえる。保護者の中には、自然体験が少ない人も多い。それもそのはずで、自然体験活動の重要性が特に注目され始めたのが2000年ごろ。自然体験教室などを主催する全国の団体が「自然体験推進協議会」を結成した年だ。そして、総合的な学習の時間が小中学校で導入されたのは02年から。保護者はそんな教育を受けていない上、世代的には一番自然体験活動を行っていないのである。経験が無いのでイメージが来ない、イメージが来ないから何を準備したら良いか分からないのだ。

子どもたちへの体験学習はこれからの未来のために重要だが、子育て世代の親にも必要だと強く感じている。野外での体験は、実際の経験以上に想像力や判断力を養う。これは子育てにも役立つことであり、社会においても重要な要素だと思われる。

実際、上田地域の子どもたちを集めて毎月開催し、夏には森の中で秘密基地づくりをしたり、冬には雪遊びをしたりする「森でもりもり遊び隊」には「私がやってみたい。子どもがうらやましい」とのお母さんの声も聞かれる。



長野県は大自然に囲まれているものの、野外での活動は、登山やスキーに代表されるように地元民よりも、むしろ首都圏や関西地方からの参加が多いように思う。これからは、地元の人も親子で参加する活動を増やしていく予定である。そして、親子共に自然から多くを学んで帰ってほしい。大自然の中で、親子のきずなを一層深めていただけたらとスタッフ一同願っている。(写真:親子イベント「春の森遊び」より)

やまぼうしインプリ発信

遊々の森から思う森づくり：小林雅幸



プロフィール

富士見町在住・在来軸組工法大工・やまぼうし理事
小学生の頃読んだ「釣りキチ三平」に感銘を受け、
以来「釣りキチ三平」全 67 巻が心のバイブルとなり、
宝物となる。溪流釣りをこよなく愛する二児のパパ。

やまぼうし自然学校の「森林インストラクター養成講座」でお世話になりはじめ、もう 10 年が経とうとしている。この間、様々なプログラムをインプリとして担当させてもらった。なかでも最も多く担当させてもらったのは、「森づくり体験」であったように思う。

2006 年（平成 18 年）8 月、「軽井沢中野区遊々の森」で森づくりが始まった。「中野区遊々の森」とは、林野庁が、林業衰退及び地球温暖化防止対策として、平成 14 年から事業化している遊々の森制度の一環で、国有林を教育活動場所に広く開放することで、「森林体験活動を通して、理解の促進と共生する社会の実現」を目的に実施されているものである。中野区教育委員会も、軽井沢少年自然の家での学習場所のひとつとして活用できるよう、2006 年 3 月に東信森林管理署との間で「遊々の森」の協定を結んだ。そしてその年の 5 月、開園式が行われ現在に至っているものである。

自分もスタート当初からこの「森づくり体験」プログラムに、インプリとして関わらせてもらってきた。やまぼうしでは、様々なプログラムがあるが自分はこの「森づくり体験」が大好きだ。一番多く担当したプログラムであるからかもしれないが、自然を総合的にダイレクトに感じられるプログラムだと思う。また、ストレートなのがいい。インプリのスキルも総合的に問われる。毎回一緒にさせていただくインプリの方々を見て、「自分もっと勉強しなくては」そう痛感させられてしまうところではあるが・・・。

子どもたちの反応もストレートだ。木が倒れ、林冠から光が差し込んだ瞬間、子ども達の表情も輝く。みんなのモチベーションが一気に上がる時なんだと思う。中野区遊々の森で一緒に時間をすごした子供達も、やっぱりみんないい表情をしていた。

今年も 7 月の下旬、この森で中学生を対象にした「森づくり体験」を担当させてもらった。下見の時点での天候は、非常に微妙。しかし当日担当のインプリ全員一致で、「雨プロ（雨天プログラム）」に即決となった。午後、「雨プロ」をスタートさせて程なく、ものすごい雨となった。みなさんの状況判断、さすがでした。



この日の「雨プロ」はウディクラフト。ここ 4 年来、中野区遊々の森で「雨プロ」になったのは、今回がはじめてのような気がする。

ウディクラフトも、森からの恵み、副産物を有効利用するという意味で素敵なプログラムだ。かなり多くの素材が用意され、「何でも好きな物を作って下さい」というかたちで始まったので、そのアイデアが湧くまで、子ども達はだいぶ悩んでいたようだった。しかしできあがってみると、どれも力作でなかなかの出来だった。制作中に各グループを回っていると、「森に行きたかった！」の声があちこちで聞かれた。こればかりはどうする事もできないんです。みなさん、ごめんなさい！

「森づくり体験」プログラムは、「木を伐ることは自然破壊だとおもいますか？」この問いかけから始まる。「木って本当は伐ってもいいのかな？いけないのかな？」プログラムの冒頭では、半数近くの子も達が、伐ってはいけないものなんだと思っている。作業をしながら、また作業を終えてのまとめの時間に、現在の日本が、現在の世界全体が直面している環境問題について話す。すると子ども達は非常に素直に、木を伐ることの必要性、重要性について理解してくれる。これは少し怖いことでもある。だからより一層責任を持ってみんなの前に立たなければならない、そう感じる瞬間でもある。しかし、である。自分は正直なところ、ここで環境問題についてしっかり考えて帰って欲しいとか、ましてや山師になって欲しいとか思ってやってはいない。ただ森にいることの気持ちよさを、「感じて」帰って欲しいと思っている。

もともと自分は木や草花、鳥や虫に興味があって森と関わるようになった訳ではない。きっかけは「溪流釣り」だった。いくつになってもずっと綺麗な川で、綺麗な魚たちと遊んでいたかった。どうしたらこの川を、魚たちを残していけるだろう、そう考えはじめ、たどり着いた先に森があった。元気な森がなければだめなんだということに気がついた。川を守りたい。だから元気な森をつくりたいのである。子ども達にも、感じて、考えて、理解した先に森づくりがあればいいと思う。しかし毎回の数時間のプログラムのなかでは、とても無理なことである。でもその数時間の「森づくり体験」で、森の気持ちよさ、心地よさを「感じて」もらえたら、森をおもうきっかけになる「なにか」を感じて帰ってもらえたら、いつもそう思っている。

「森づくり体験」はそのほとんどが木を伐る内容である。木が倒れていく瞬間は、ダイナミックで気持ちいい。その反面このプログラムは、他のやまぼうしプログラムに比べ、リスクが大きいのも事実だ。ダイレクトに、ストレートに自然と付き合う分、危険度も大きくなっていく。この事は、自分はもちろんであるが、担当されるインプリ、やまぼうし自然学校のスタッフが一番大切な共通認識事項としていなければならない。「安全第一」である。

終わりに、青いヘルメットを被った子ども達のなかから、素敵なナチュラリストが生まれてくることを願って止まない。



これな～んだ

「やまぼうしで出会うハンテコな名前」

～ 半分以上わかったあなたは、やまぼうし通 !? ～

- Q1. スイスの森
- Q2. ざっちゃん
- Q3. ケットラ
- Q4. バカ
- Q5. スイカの木
- Q6. ネコ
- Q7. ハンドラ
- Q8. やどろく
- Q9. カナチョロ
- Q10. トイペ または トイバ



答え

- A1. 菅平で森遊びの時に使わせてもらう、スイスホテルさん所有の森のこと。他に「桑田の森」「川上さんの森」「ツチグリの森」もあります！
- A2. 子どもたちに大人気の「ザトウムシ」のやまぼうしでの愛称。落ち葉を食べる、森のお掃除屋さんです。
- A3. 大活躍の「軽トラック」の略称です。
- A4. 「キンミズヒキ」や「ヌスビトハギ」などの、洋服や動物の毛にくっついて種を運ぶ植物の総称です。「ひつつきむし」と言ったりもしますね。
- A5. ネイチャートレイルでよく出会う、「ウリハダカエデ」のことを子どもたちがこう呼びます。
- A6. 外作業に使う「一輪車」のことです。
- A7. 自然体験プログラムの中で人気の青竹クーヘンなどで使う「縦半分に切ったドラム缶」です。足付きなので、直火ができない場所でも活躍します。
- A8. 長谷川さんが所属する、菅平のラグビーチームの名前。この間の試合では、フッカーとして活躍し、スローインもバッチリ決めました！
- A9. しっぽがかわいい、「カナヘビ」のこと。
- A10. 「トイレットペーパー」の略称。

小学生長期自然体験指導者養成講座

“いまどき”の小学生に、自然体験のおもしろさを伝える人になりませんか？

<小学校長期自然体験活動指導者とは>

2011 年から小学校で実施予定の「小学校長期自然体験活動」において、先生に協力して自然体験活動をサポートする資格です。子どもたちの豊かな心をはぐくみ生きる力を身につけるためには自然体験活動が重要であることから、国は小学校 5 年生が 1 週間程度の集団宿泊活動・自然体験活動を展開できるように環境の整備を進めています。その一環として、文部科学省少年課は「青少年体験活動総合プラン」で、指導者養成とプログラム開発に取り組んでいます。

今回は、やまぼうし自然学校が CONE（自然体験活動推進協議会）の委託を請けて「指導者養成カリキュラム」に基づいた指導者養成講座を実施します。取得後は、ぜひ研修を重ねて、やまぼうし自然学校インタープリターとしても活躍ください！

講座受講費

全体指導者養成講座	4,000 円+（宿泊費実費）	定員 30 名
補助指導者養成講座	1,000 円	定員 30 名（各会場）



全体指導者養成講座	9/26・27、10/31・11/1（長野）
補助指導者養成講座	9/26（長野）
補助指導者養成講座	10/24（東京）

お問い合わせ・お申込みは、やまぼうし自然学校へ

いちおし体験学習



森遊び

既存の遊具は何もなく、あるのは自分たちのアイディアと手足。用意する道具はノコギリや剪定ばさみ、ロープ。そして、笑顔の素敵なやまぼうしの「森の達人」。

林業では、やっかいもののひとつである蔓も自然のターザンロープとして大人気。どこまでも、夢中で穴を掘り続ける姿も。

森のターザンロープ
森の傾斜と滑車を上手に利用します。思わず叫びたくなるスピード満点！

秘密基地
材料をロープで縛り、素敵な梯子もついたなら、居心地も眺めも最高！

森のブランコ
木漏れ日を頬に感じ、森の風になるブランコ。ずっと乗っていただきます。



～やまぼうしからのメッセージ～

自分のアイディアを形にし、どんどん遊びが展開していく時、本当に子どもたちが生き生きしています。木を登るのが苦手な仲間のために、足場を一段増やし、道具を譲り合い、転んだ仲間へ声をかけ、そして森中のあちこちで笑い声が響く。森でのひとときが、日常生活で森との繋がりを考えるきっかけになることを願っています。

++++++会員と読者の交流ステージ++++++



東京の会員で理事の丹野さんの“わら細工品”をご紹介します。手作品で、猫つぐら、わら座、ミニ米俵などで、道具も手作り！故郷山形での経験をベースに、技術を磨いて製作しているそうです。最近は材料となるわらの入手が難しくなっているため、長野県佐久市で昔ながらの無農薬稲作をしているやまぼうしの仲間の方から分けてもらっているそうです。作品が欲しい方、手作り体験をやってみたい方はご相談ください。ただし、自然活動が比較的少ない冬期間の作業になるので、納期不問、価格とはご相談くださいとのことです。

やってみて！ 野外レシピ

○●ピザ釜からつくる！特製アウトドアピザ○●



1



2



4

ピザ釜づくり

1. 設計図とにらめっこ
2. 耐火煉瓦を、割れないように慎重に積み上げる
3. 途中、金網を2枚（ピザ乗せ用と屋根支え用）挟むのがYNS流
4. 傍らで、薪を小さく割っておく



5



8



8



9



いただきます！

ピザづくり

5. 小麦粉・強力粉・ドライイーストを混ぜたら、サラダ油とぬるま湯を入れる
6. ひとまとまりになるまでこねる
7. 手にはりつかなくなったら、1時間ほど休ませる
8. 笹をしいたトレーの上に伸ばし、お好みの具をトッピング
9. 温めておいたピザ釜で、じっくり焼いたら出来上がり

イベント情報

♪ 炭焼き&窯ピザづくり ♪

炭の掻きだしと窯ピザ、さらには鑑賞炭もつくってみましょう

日時 10月10日(土) 10:00~15:30
 集合場所 上田市菅平高原 自然体験の森
 参加費 大人 3,000 円 小中学生 2,000 円
 (キノコ狩りと合わせて2日間ご参加の場合には、特別料金
 大人¥5,500 小中学生 3,500 円でご参加いただけます)
 定員 30名
 申込締切 10月7日(水)

長野校

♪ キノコ狩り&キノコ料理 ♪

とっておきの森でキノコ狩りを楽しんだ後は、もちろんおいしくいただきま〜す

日時 10月11日(土) 10:00~15:30
 集合場所 上田市傍陽 入軽井沢館
 参加費 大人 3,000 円 小中学生 2,000 円
 (炭焼きと合わせて2日間ご参加の場合には、特別料金
 大人¥5,500 小中学生 3,500 円でご参加いただけます)
 定員 30名
 申込締切 10月7日(水)

長野校

♪ りんご de クッキング ♪

信州直送りんごを、親子でとことん味わいましょう

日時 10月10日(日) 9:30~14:30
 集合場所 黒川青少年野外活動センター
 ※駐車スペースがありませんので、公共交通機関をご利用ください
 料金 大人 1,500 円 小中学生 1,000 円(食材費、燃料代など含む/親子参加受付)
 定員 先着 20 組
 申込締切 10月7日(水)

東京支部

♪ 遊び隊まつり ♪

「森でモリモリ遊び隊」のみんなが、楽しい遊びをおすそ分け!

日程 11月15日(日) 11:00~15:00(予定)
 集合場所 上田市菅平高原 自然体験の森
 参加費 無料(一部有料コーナーあり)
 内容 遊び隊の活動紹介・地元の野菜、果物販売・野遊びコーナー・足湯
 モリモリ野菜汁の配布・クラフト販売 などなど

長野校

6,7,8月の実施事業

■ 森林インストラクター養成講座

理論安全と教育・野外ゲーム (6月6日 長野 6月13日 東京)
 登山の安全(6月7日 長野 6月14日 東京)
 理論キャンプ(7月4日 長野・東京)
 実技キャンプ(7月5日 長野・東京)
 理論林業・実技 森林観察(8月8日 合同)
 理論森林 森の昆虫(8月9日 合同)
 理論林業・実技 森林観察(8月29日 合同)
 理論森林 森の動物・模擬試験(8月30日 合同)

■ 体験学習

谷戸第二小学校(6月2日) 住吉小学校/高麗川中学校(6月3日) 顕明館中学校(6月4日)
 久寺家中学校/伊奈中学校(6月4日、5日) 保谷第一小学校(6月8日) 東部中学校(6月10日、
 11日) 東深井中学校(6月10日、12日) 吹上中学校(6月10日、11日、12日)
 保谷第二小学校(6月11日)
 緑野中学校(8月8日) 東洋大学(8月11日) 川中島中学校(8月19日)
 本郷中学校(8月22日)
 ※7月 小学校 のべ20校/中学校 のべ21校/高等学校 のべ8校

■ 森でモリモリ遊び隊/フォレストキッズ

春の遊び隊キャンプ(6月13日、14日 遊び隊)
 木のおもちゃづくり(6月20日 フォレストキッズ)
 森遊び (7月5日 遊び隊)
 早朝の森ウォッチング (7月18日 フォレストキッズ)

■ イベント

長ぐつ探検隊(6月21日 長野) ネマガリダケ (6月27日 長野)
 大明神沢探検(7月11日 長野) 高尾自然観察会(7月11日 東京)
 やまぼうし原人キャンプ(8月12日~15日 長野)

■ 委託

エコギャラリー新宿 一周年イベント(6月6日 東京)
 丸子北中学校 コスモス大学(6月18日、7月16日 長野)
 上田市教育委員会 キャンプ指導者養成講座(6月20日 長野)
 長和町保健福祉課 親子ふれあい教室(6月26日 長野)
 大笹街道ガイド(6月26日 長野) 長和町教育委員会 ふるさと探検隊(7月4日 長野)
 アウトドアフェスティバル(7月3日、4日、5日 東京) 法人の森ガイド(7月5日 長野)
 黒川青少年野外活動センター 里山ボランティア(7月5日、8月2日 東京)
 上山田育成会 デイキャンプ(7月25日 長野)
 ミネルヴァ サマージャンボリー(7月27日~31日 長野)
 長野放送 デイキャンプ(7月29日 長野)
 上田北小学校 PTA 北小っこチャレンジ(7月30日 長野)
 リソー教育 ライオンキャンプ (8月16~26日 長野)
 西東京市教育委員会 新任教諭研修(8月20日 長野)
 多摩市ハケ岳青年自然の家 サマーキャンプ(8月21日~23日 長野)
 長野県学習旅行推進協議会 サマーキャンプ in 信州(7月21日~8月26日 10コース 長野)
 エコギャラリー新宿 樹木博士(8月23日 東京)